# はじめに

鴨川は、平安遷都以来千二百年にわたり京都のまちと人々の生活に深く関わり、21世紀を迎えた現在でも多くの人々に愛され親しまれ、その歴史、文化などあらゆる面において、京都が世界に誇る代表的な河川といえる。

近年、鴨川及びその流域をとりまく環境は、高度成長期における都市化の進展等に伴い、河川、水路の埋め立てや暗渠化が進み、「見える水」から「見えない水」へと様変わりすると同時に、降雨の浸透域の減少によって、洪水の流出速度と流量の増加や平常時の河川水量の低下をまねくなど、水循環という点で大きく変化してきている。また、鴨川では昭和10年以降大きな水害は発生していないが、一方で最近は全国各地で集中豪雨が頻発しており、鴨川においてもこういった豪雨がいつ起きるとも限らず、流域に多くの人口と資産が集積する鴨川の治水対策は重要な課題であり、さらに、景観や河川利用を巡る様々な課題も多く見受けられる。

私たちは、このような水に関わる課題に適切に対応し、鴨川を軸とした「みずみずしい京都のまち」を保全あるいは再生し、よりよい姿で次世代に継承していかなければならない。このため、京都の川、自然、歴史、文化、産業、観光などの様々な分野に造詣の深い方々からなる鴨川流域懇談会において、今後の鴨川のあるべき姿について幅広く議論を行い、この度、その結果を報告書としてとりまとめたところである。

今後、京都府において策定される鴨川の概ね20～30年間の具体的な河川整備の内容を定める河川整備計画をはじめ、京都の水環境の保全・再生等に向け、京都府並びに京都市の様々な施策に活かされることを期待する。

おわりに、これまでの５回にわたる懇談会において、多くの府民の方々の御参加と多数の御意見をいただき、皆様に感謝を申し上げる次第である。また、鴨川流域懇談会の委員であり、京都の伝統と文化に携わられるお立場から貴重な御意見を賜っておりました千家十職塗師第十二代 中村宗哲 様におかれましては、昨年11月５日にご逝去され、ここに改めて感謝申し上げ、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

平成18年5月
鴨川流域懇談会
座長　中 川 博 次